

教えて!! ドクター

Q & A

Q 50代男性です。自覚症状がなかったのですが、緑内障と診断されました。緑内障とはどのような病気ですか。今後気を付けるべきことはありますか。

A 緑内障は厚生労働省の調査で、現在わが国の失明原因の第1位で、40歳以上では20人に1人、主に中高年者で日本に200万人いて、有病率が年齢とともに増加します。

放置すれば失明に至る怖い病気ですが、病気に気付かない人が8割を超えるといわれています。

緑内障は、眼圧と密接に関係しています。眼圧は10〜20mmHgが正常ですが、17、18といった正常値でも正常眼圧緑内障という、緑内障があります。

しかし眼圧が高ければ緑内障である確率も高くなるわけですから、より注意が必要です。また、どんなタイプの緑内障でも、眼圧を下げるのが唯一の確実な治療法となります。

最近の緑内障の診断と治療の進歩は目覚ましく、薬物、手術、レーザー療法となつていますが、それでも早期発見と早期の治療がとても大切です。

緑内障が恐ろしいのは、進行性で主に最初、視野の中心と鼻側に見えないところ(視野欠損)が生

じ、それが次第に広がってやがて失明してしまうことです。しかもだいたい片目から始まります。普段両目で見ているので片目の視野が欠けても、反対の目がその視野をカバーしてしまい、また進行がゆっくりなので、視野が悪くなったことに気付かず、気付いたときには手遅れになっていていることがあることです。

また治療しても普通、改善はせず、視野の悪化を食い止めるのが治療の目的となります。ですから、早期発見、早期治療が大切なのです。

よくドック式の健診で視神経乳頭陥凹拡大といわれる方がいます。これは緑内障の疑いがあるということですが、緑内障ではない場合も多いのですが、もちろん緑内障の場合もありますので、必ず眼科を受診してください。

また、点眼薬を処方して、眼圧が改善すると、安心して点眼をやめてしまう人がいます。これはとんでもない間違いです。緑内障は、コントロールする病気であつて完治するものではありません。必ず医師の言うことを守って治療するように心掛けてください。

今回答えていただいた先生



横浜市出身。慶応義塾大学医学部卒。日本眼科学会認定眼科専門医。まつい眼科医院院長。丁寧な診察と、的確な診断治療に心掛けている。

まつい眼科医院
院長 松井 久和